

花満開プロジェクトに寄せられた意見まとめ

★直接的支援

- クリスマス特別メニューをかき込んで食べていた利用者さんに気付いた看護師や支援員が言葉かけをしていた。
- 食事のとき、おかずを持ち帰る利用者さんに優しく声掛けをし、さりげなく見守り食事を楽しんでもらおうとしていた支援員がいたので、素晴らしいと思った。
- 利用者さんが他害行為をしてしまった際に、支援員の声掛けで「今まで我慢したもんね。Aさんが気になったんだよね。つらかったね。」と話していたのが、利用者さんの気持ちに寄り添ってあげているなと感じた。
- 食事の際、男女の利用者さん問わずに、声かけをし、コミュニケーションを取り、利用者さんの把握しようとしている姿勢が見られていいなと感じた。
- クリスマス特別メニューを食べ辛そうにしていた女子利用者さんに気が付き、支援員が食べやすいようにほぐしていた。その後、同様に隣の利用者さんにも同じ支援をしていた。
- 支援員が食事形態の変更になった方にマンツーマンで付き、食事摂取状況を確認していた。スプーンの使用なども声掛けで誘導していた。新たな食事形態になった方に対して、支援を考えている方だと思った。
- 興奮しそうな利用者さんに対して正面から止めるのではなく、「一緒にゴミ捨てに行こう」と言うように誘導する支援は素晴らしいと思った。
- 不穏になっている利用者を注意もし、なだめもし、テンションも上げ、上手く誘導している姿をみて凄いなと思った。
- 行動障害のような行動がある利用者の方の日中の過ごし方について、絵合わせカードを作成し、やっている支援員がいました。そういった新たな取組、他事業所でやっていた内容を取り入れようとする姿勢が素晴らしいと思いました。
- 支援員が、利用者さんが泣いてアピールしている際、手遊びを初め、じゃんけんを行う。支援員がじゃんけんで勝つとその方に「私が勝ったので願いを一つ聞いてもらっても

いいですか？泣かないで笑って下さい。」と言い泣くのを止めてもらっていた。ただの声かけでなく、面白く笑顔に出来る支援だと思った。

♥ほっこりエピソード

○タウン誌の食べ物特集の写真を見ながら、「このお肉おいしそうだね！」モグモグとエアードで食べる真似をすると、笑顔で答えてくれ一緒に口を動かしてくれた。

○疲れたな・・・とトイレ介助をしながらため息をついてしまった時、ある利用者さんが顔を近づけ覗き込んできて、思わず大笑いをして元気をもらえた。

○短期入所の方が、久しぶりに利用した時に、「〇〇さんは、今日来ないのか？」と覚えていてくれたことが嬉しかった。

○先日、利用者さんの保護者より話がある。内容は「お姉ちゃんが面会に来た時にりんどうの家の職員の対応、日頃の支援が行き届いて安心した」と言って帰っていったんだというもの。この言葉に日々のスタッフの努力が家族に伝わり嬉しかった。

★心遣い

○以前から棟内の衛生面に気に掛け、こまめに掃除をする支援員がいます。利用者さんの生活環境が整えられてとても良いと思います。

○花見が出来なかったのですが、写真を飾ると少しでも桜の雰囲気をとピンクの花を作ってくれた職員がいました。

○車椅子を使っている利用者さんがショート利用の為に保護者に送られて来園されました。申し送りの後、家族が帰る際に対応していた支援員が車椅子の向きを変えて利用者さんが家族を見送られるようにしていたのはちょっとした気遣いだなと感じました。

○直接的な良い支援ではないですが、利用者さんにも支援にも慣れてしまうという話が出ました。その時に「初心忘れるべからず」ですねと話になりました。そういう思いで仕事をしていかねばと再確認出来ました。

担当者より

これまでに、職員の皆さんにあげて頂いた良い支援の輪を広げるための意見です。挙げて頂いた意見をふまえてこれまで以上に精進していきたいと思えます。